

人権教育だより

2026年（令和8年）7月17日発行
鹿本農業高等学校 NO.1
人権教育主任 原口菜穂子

～言語環境を整え、1人ひとりが輝く学校づくり～

今年度から、人権教育主任になりました、国語科の原口菜穂子（はらぐち なほこ）です。
よろしくお願いします。

1学期はスタートの学期。入学式、対面式、歓迎遠足、体育大会、台湾六龜高級中学校との交流など、たくさんの行事がありました。その中で、6月18日の6時間目に各学年での人権教育LHRを実施しました。生徒の感想を紹介します。

1年生…「ハンセン病問題」

- ハンセン病などの人権問題についての学習は小学校から中学校まで何回もしてきたけど、やっぱりこういった問題は、自分のこととしてしっかり考えていかなくちやいけないなと思いました。動画で平沢さんが「差別を受けてきたけど、自分はどうか」と話していたとき、病気のこと、辛い思いをしてきたのに、自分の考えをしっかり改めて、反省していたことがとてもすごいなと思いました。自分もそんな人になりたいです。
- ハンセン病のことは、中学校でやったり、恵楓園で色々な資料を見たりしたけど、回復者の方からしか聞けない話がありましたハンセン病患者の仲でも差別があったり、らい菌が見つかって、神様からの天罰だとか、悪い人になる病気だとか言われていたと知って、正しく知ることが大切だとわかりました。
- 今回、ハンセン病について動画を見て、うつらないといわれている病気なのに、うつるといわれたり、感染したみんなを隔離したり、閉じ込めたりと、ひどいことをやっていて、ひどいなと思いました。ハンセン病は、小学生の時から学習していたけど、知らなかったことを知ったり、今まで習ったことを振り返ることもできました。差別はやってはいけない、今後もそう思って行動していきたいです。



熊本県人権啓発キャラクター「コッコロ」。
県の花「リンドウ」の帽子をかぶり、人権尊重の温かさ、やさしさを手と体（羽）のハートから発し、みんなに優しい心を伝える、人権啓発キャラクターです。

2年生…「障がい者の人権」～自分らしく生きるために～

- 私は「正面から向き合うことで、人の痛みにも気づくことができる」ということばが印象に残りました。障がいがあっても、前向きに挑戦しつづける姿から多くのことを学びました。相手と真剣に向き合うことで、その人の気持ちや苦しさを理解することが大切だと感じました。また、この思いや学びを自分だけで終わらせず、多くの人に伝え、広めていくことが必要だと思います。これからも人のつながりを大切にしながら、思いやりのある行動を心がけたいです。
- 障がいを持っている持っていないに関係なく、みんな平等にすることが大事。自分自身を大切にすることも大事。それ以外に大事なものは、障がいをなくすことではなく、障がい者差別をなくすこと。
- 障がいの有無にかかわらず、困ったときはおおき、助けが必要な時はだれかに助けを求めすることも大事だと学びました。相手のことをよく知り、関わりを増やすと差別は減っていくと思います。

3年生…「拉致問題」

- 今回の学習をとおして、拉致問題について理解を深めることができました。動画を見て、被害者の方々やその家族の思いや苦しみ、つらさを知って、とても胸が痛くなりました。今まで当たり前だった日々が突然うばわれてしまうことが、どれだけ辛く悲しいことなのか、改めて考えさせられる学習だなと思いました。そして、拉致問題は被害者本人だけでなく、その被害者の家族の人たちの人権にも関わる、大きくて深刻な問題ということを学ぶことができました。私は拉致問題はニュースでたまに見かけるぐらいで、あまり内容を知らなかったけど、今日の学習をとおして、拉致によって多くの人の自由がうばわれてしまったことや、いまでも被害者の家族の人たちが、「家族会」で活動していることがわかりました。この学習をとおして、人権を守ることの大切さについて改めて考えることができました。
- 今回の動画を見て、拉致は決して他人事ではないと改めて学ぶことができました。普段私たちが過ごしている幸せな生活が突然なくなることの恐怖は実感しにくいかもしれないけど、1人ひとりがしっかりと考えて理解する必要があるなと思いました。拉致被害者の家族で救出を訴える斎藤文代さんの話を聞いて、大切にされていない家族はいないんだと感じました。何百人もの日本人が姿を消しているのに、日本にもどってこれたのは5人ということに驚きを感じました。いつもの日常を当たり前だと思わないようにしたいです。そして、署名活動をしている方々を見かけたら素通りするのではなく、立ち止まって話を聞きたいと思います。
- 一番辛いのは拉致された被害者だけど、それ以上に被害者家族の方が強く思う場面があり、もし自分の大切な人が急にいなくなったら、何も考えられず何をしたいのかも分からなくなると思います。ですが、今日視聴した親族の方々は何十年たっても思いは変わらず、ただただ娘を想う気持ちが機動力になっているのだと感ずることができました。

2学期は9月17日に1年生「外国人の人権」、2年生「災害と人権」、3年生「言わない・書かない・提出しない取り組みにむけて(7月9日実施)」をテーマにしたLHRを実施します。また、10月29日に人権教育講話を予定しています。

コラム パズルのピース1 「人権ってなに？人権教育ってなに？」

ジグソーパズルをやったことがありますか？同じ形の欠片(ピース)は一つもありませんが、どれが欠けても1枚のパズルは完成しません。私たちも同じです。一人ひとりが違う形(個性)を持っていて、誰が欠けても「鹿本農業高校」という「パズル」は完成しません。一人一人の個性を大切にする、違いを認める学校にしたいという願いを込めてつけた名前です。

さて、「人権教育」の「人権」ってなんでしょう？「誰もが生まれながらに持っている、自分らしく幸せに生きるための権利」です。それは特別な人だけが持つものではなく、成績や見た目、国籍、性別に関係なく、あなたにも、あなたの隣にいる人にも、100%平等に備わっています。しかし、現在その「人権」を脅かすさまざまな問題が私たちの目の前にあります。

SNSでのコミュニケーション。「ノリ」や「いじり」のつもりで書いた言葉が、画面の向こうの誰かを深く傷つけていませんか？ネットの誹謗中傷は、相手の「平穏に生きる権利」を奪う重大な人権侵害です。

「らしさ」の押し付け。「男のくせに」「女子なんだから」「高校生なら普通こうでしょ」といった言葉。これも、その人の個性や生き方を狭めてしまう、身近な人権の問題(ジェンダーや多様性の問題)です。

これからの進路やバイト。ブラックバイトで不当に働かされたり、見た目や性別だけで判断されたりするのはおかしいことです。人権を知ること、は、「理不尽な目にあわされたときに、自分を守る武器」になります。就職差別にも対抗できる力をつけることができます。

人権教育は何かの知識を暗記する授業ではありません。「もし自分が相手の立場だったら、どう感じるだろう？」と想像できる力を育てるため、そして差別を許さない人になるために学ぶ授業です。生徒のみなさんも、教職員も一緒に、日本における人権課題を正しく知り、解決していく力を身につけるための取り組みです。

「自分事」として捉え、共に心地よい社会をつくる一歩になる授業にしたいと願っています。